

ふくおか湿地保全研究会

～豊かな自然を次世代に残そう！～

湿地研通信

9号

H21.9.1 発行



多々良川河口左岸の葦原が 島になりました！

多々良川河口左岸の水処理センター横に、塩生植物やカニ類保全のために、福岡県福岡土木事務所が縄張りをされた葦原がありました。左岸護岸上遊歩道整備事業福岡土木事務所と多々良川名島鉄橋改修工事(JR九州)の終了に伴い、この葦原を島状にさせていただきました。島にすることで人などの侵入を防ぐことができるため、希少生物の保全に役立っています。また、鳥類の休息場としても有効に機能しています。

溝の幅は約6m、島の広さは約14m x 20m、高さは盛り土をして大潮満潮時でも水没しない高さになっています。

この工事は、福岡土木事務所・JR九州・(財)九州環境管理協会のご理解とご協力により実現しました。

島が完成したのは6月23日ですが、早くもその次の日からカモ類、サギ類、アオアシシギなどのシギ類が満潮時の休息場として利用、クロツラヘラサギもやってきました。



多々良川河口域の魚・カニの観察会 (東箱崎公民館主催)

7月20日、東箱崎公民館主催『多々良川河口の魚とカニの観察会』に講師として協力しました。参加者は17名。梅雨の最中でしたが何とか天候ももち、いい観察会が実施できました。



魚は、投網を打って魚を捕獲し、その解説をしました。捕れた魚は、クロダイ・スズキ・マハゼなど7種。クロダイとスズキは大きい個体が捕れ、参加者の皆さんも喜ばれていました。アナジャコも触って観察することができました。



カニは、アカテガニ・アシハラガニ・ハクセンシオマネキ・マメコブシガニ・ヤマトオサガニなど9種、観察できました。捕獲したカニはケースに入れて観察しました。女の子がカニに指を挟まれるハプニングもありました。捕まえて触ることが出来る魚やカニの観察会は、皆さん、本当に楽しそうで、子ども達はどうも喜んでいました。



2009環境未来国際市民大学院講座 持続可能な港湾整備と水辺の生物多様性

6月18日、福岡市のアクロス福岡にて開催された第二回環境未来国際市民大学院講座に参加しました。(福岡大学環境未来オフィス主催)

福岡大学中野教授がこの会の趣旨説明をされた後、国土交通省港湾局振興課 宮本課長が『持続可能な港湾開発と環境保全の取り組み』



と題して国内の港湾開発の変遷と現状について講演、ワシントン大学ベーカー教授から『持続可能な生態系の復元と保全に向けて』と題した米国ピューリッツェットサウンド湾における保全活動などについての紹介があり、最後に当会の土谷が『湿地保全と市民の役割』をテーマに話題提供を行いました。土谷は、福岡都市圏の干潟の変遷、干潟の生きものの解説、そして当会が環境保全のためにやってきた調査・啓発・清掃・行政への提言などの活動を紹介し、干潟湿地群の保全構想を提言しました。

大学関係・県や市などの行政関係・一般市民など、多くの参加者があり、熱心に聴き、討議されていました。



コアシサシ、今夏も繁殖せず...

今夏も博多湾にやってきたコアシサシ、人工島内で、少数、営巣しましたが、カラスの妨害などがあり、繁殖は成功しませんでした。国交省海の middle 道海浜公園事務所・福岡市港湾局環境管理課のご協力をいただき、テコイを設置し、繁殖の様子を観察・支援してきましたが、残念でした。

少なかったシギ・チドリの渡り

シギ・チドリ類が、福岡湾東部で秋の渡り期に主に利用する場所は、多々良川河口・名島・香椎・人工島内擬似湿地です。成鳥は7月末～8月に渡ってきますが、今季観察できた個体数は、これまで観察してきた中で最低と思われる。

昆虫やエビを餌にしている小型のシギ・チドリ類は人工島内擬似湿地への依存度が高い傾向にあります。しかし、今年は7月に記録的な大雨が降ったためか人工島内擬似湿地の水位が高く、観察できた数は例年になく少数でした。また、名島海岸も大雨で多々良川から粒子の細かい泥が流れてきて潮間帯の岩礁を覆ったため自生しているアオサが枯れてしまい、餌場として機能しませんでした。主に小型のカニを捕食しているキアシシギ・アオアシシギ・ソリハシシギなどは例年通りの個体数が確認できませんでした。彼らが主な採餌場所として利用したのは、カニ類が豊富な多々良川河口・名島海岸でした。

8月末から9月にかけて幼鳥が渡ってきますので、引き続き観察していきたいと思えます。



名島海岸のトウネン 09. 8. 27

その他の活動

*環境省委託シギ・チドリ秋季全国一斉調査 協力

*多々良川の月例清掃継続中（HPに清掃の様子を掲載）

『リビング福岡中央』7月4日号で、この清掃&

「三」観察会のことを紹介してくださりました。

*月一回の人工島内鳥類調査継続中

（HPに調査結果を掲載）

釣り専門高校生、多々良川清掃に継続参加

ヒューマンアカデミー福岡校フィッシングカレッジ（釣りの専門学校）の学生さん達が多々良川の清掃活動に参加してくれています。

7月6日午後、合流部葦原の宇美川上流部を清掃しました。藪を潜り抜けてたどりついた葦原にはゴミが大量に堆積していて、その有様に皆さん絶句！回収した「ゴミ」は、可燃物24袋・不燃物5袋・ポリ容器・発泡スチロール箱など。そして、釣りの用ルアー6個。今回も、釣りの専門家を目指す若い方たちに、釣り糸等を含むゴミの現状を知っていただくことができました。



回収したルアー

『釣り人へ、お願いします』看板

前号でお知らせしましたが、6月、福岡市港湾局の許可を得て、釣り人が多い名島海岸に『釣り人へ』お願いの看板を設置しました。名島海岸で観察できる鳥達の説明板も一緒に設置しました。



8月に田川郡大任町で開催されていた野鳥の写真展（大任町教育委員会と日本野鳥の会筑豊支部との共催会場に、筑豊支部が作られた『釣り人をされる方へ』のポスターが掲示してあり、各地への拡がりを嬉しく思いました。

井尻上池の保全活動を行いました

井尻上池の保全活動を、多々良川清掃と同様に定例化することにしていましたが、予定日が雨天続きで延び延びになっていました。8月23日（日）は好天に恵まれ、近所の方達と草刈・清掃を行い、心地よい汗をかくことができました。

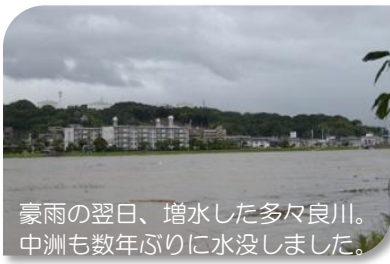
池周囲のヤマノイモにムカゴができていたので、お土産に持って帰っていただきました。美味しかったことと思います。



次回予定 9月27日
皆さんご参加を
お待ちしております！

豪雨の影響

長く続いた今年の梅雨ですが、7月末、福岡市でも記録的な大雨が降りました。皆様の地域は大丈夫でしたでしょうか？当会の主な活動域である多々良川流域でも大きな被害があり、自然の脅威をあらためて感じました。



豪雨の翌日、増水した多々良川。中洲も数年ぶりに水没しました。



豪雨後の多々良川松崎側遊歩道 このラインまで増水しました。

「ふくおか湿地保全研究会」は、福岡市周辺の環境・野生生物調査を行い、その調査結果をもとに環境保全活動を行っているグループです。開発などにより失われてきた自然を補っていくための方策を、市民の皆さんと共に、考え、行動していきたいと思っています。現在、福岡湾東部では、多くの鳥類が、いずれ消滅する人工島内擬似湿地に依存しています。調査や活動を通じ、保全に努めていきます。詳しくは、ホームページをご覧ください。一緒に活動して下さる方を待っています。あなたも、参加してみませんか？

『湿地研通信』第9号をお届けします。ご感想など、お寄せください。秋の名月に何を祈りましょう…



発行：ふくおか湿地保全研究会

代表：服部卓朗 福岡市東区千早1-6-14

電話：090-2850-6859

ホームページ：<http://wetland-research.org/>

E-mail webmaster@wet-fukuoka.sakura.ne.jp